

保護者の皆さま

吹田市立藤白台小学校  
校長 井上 佐和子

## 平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また、吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年を対象とした調査であり、教科も国語・算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

### 1. 教科に関する調査の分析

#### ●国語

##### 《概要》

- ・国語 正答率が、全ての領域において全国及び大阪府を10%以上、上回っている。

##### 《各領域における成果と課題》

###### 話すこと・聞くこと

- ◎ 豊職人への質問に関する「話すこと」は全国及び大阪府を上回っている。「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の理解が正しいかを確認するための質問をする」問題に関しても高い正答率であった。
- △ 「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめて書く」問題（「聞くこと」）の正答率は、全国及び大阪府を上回っているものの、正答率は高くない。

###### 書くこと

- ◎ 図表やグラフを用いた記述や、相手に分かりやすく伝える記述の問題において全国及び大阪府を上回っている。
- △ 「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」問題では、全国及び大阪府を上回っているものの、正答率は高くない。

###### 読むこと

- ◎ 全ての問題において、平均正答率が全国及び大阪府を大きく上回っている。
- ◎ 「目的に応じて本や文章全体を概観して効果的に読む」ことや「意図を捉えて聞き質問する」等の活用については全国及び大阪府を大きく上回っている。

###### 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- 漢字を書く問題において、平均正答率が全国及び大阪府を上回っているものの、同音異義語に注意して、漢字を正しく使う問題では正答率が6割以下にとどまった。
- 「文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く」問題は、全国及び大阪府を大きく上回っているものの、正答率が6割以下にとどまった。
- △ ことわざの意味を理解して、自分の表現に活用する問題の正答率は、大阪府を上回るが、全国値をやや下回っている。

### 《今後の指導改善点》

#### 聞くこと・書くこと

- ・ 相手の話を聞き、自分の考えをまとめて書くためには、相手から話を聞き出すための質問を考え、具体例を挙げて聞いたりするなど、質問の仕方を工夫すること、そこから自分の考えとの共通点や相違点を整理して書く学習を行います。
- ・ 自分の考えの理由を明確にしてまとめて書くには、自分の考えが相手に伝わるように、事実を考えとを区別して書いたり、また文章の構成などを踏まえたりして、書く力を養います。

#### 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・ 同音異義語など漢字の活用やことわざを使って文を表現し、学習したことを実際に使ったり、目的や相手を意識して文章を書いたりする機会を増やしていきます。
- (低学年) 読書活動を推進し、語彙数を増やしながらか、主語・述語の関係を意識させます。  
(中学年) 修飾語や慣用句、ことわざなどの語彙を増やしながらか、それらを活用した文づくりに取り組んでいきます。  
(高学年) 要約の練習や報告文、推薦文などの実用的な文章を書く活動を他教科とも連動して行います。その際、文章の内容に即した資料の活用の指導を継続して行っていきます。

## ●算数

### 《概要》

- ・算数 平均正答率が、全ての領域において全国及び大阪府を上回っている。
- ・問題形式が「選択式」と「短答式」の平均正答率は約 8 割と全国及び大阪府を上回っている。
- ・「記述式」の問題においては、約 6 割と全国及び大阪府を上回っているものの大きく下がり、数学的な思考を言葉で表現する力に課題が見られる。

### 《各領域における成果と課題》

#### 数と計算

- ◎四則計算の立式・計算の仕方を理解し、与えられた式の計算の提要はできている。
- △四則計算において、乗法や除数の性質を活用して、計算しやすい式にして計算する解き方は理解しているが、その性質や計算の手順を記述することには課題があり、無答も多い。

#### 量と測定

- ◎面積の求め方や、グラフの読み取り方については、平均正答率が約 9 割と概ね理解している。
- △示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述することに課題がある。
- △グラフを読み取り、示された場面の状況から、その後の求め方の説明を記述することに課題がある。

#### 図形

- ◎図形の性質については、概ね理解できている。
- △図形の性質や構成要素をもとに、辺の長さを変えたり、裏返したりすることで、他の図形に構成することに課題がある。

#### 数量関係

- ◎グラフ資料の特徴や傾向を読み取ることができている。
- ◎目的に適した伴って変わる 2 つの数量の関係を読み取る問題については、平均正答率が 9 割と、全国及び大阪府を大きく上回っている。
- △ 2 つのグラフを関連付けて、一人当たりの使用量などを判断し、その判断の理由を記述することに課題がある。
- △加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることに課題がある。

### 《今後の指導改善点》

- ・解き方を覚えさせるのではなく、日常生活や身のまわりの題材を用いて体験的に求めるようにします。また、問題に対して多様な解き方を考え、それを互いに説明し合うことで、説明する力や記述力を養います。
- ・算数科でも、文章の読み取りや理解したことを説明したり、文章題を作成したりするなどの言語活動を充実させます。また、問題場面を図や数直線などを用いて、数量の関係を的確に捉え、立式する活動を今以上に取り入れ、指導していきます。
- ・四則計算の性質に着目し、計算の工夫を学ぶ単元だけでなく、その他の場面においても活用できるよう指導してきます。また、図形の面積を求める際にも、図形の性質を使用して形を変えるなどの工夫を積極的に取り入れ、活用できるように指導します。
- ・計算の順序についてのきまりを確実に理解できるようにするために、文章題などの立式する際、四則を混合させたり、( ) を用いたりして一つの式に表すことができるように指導していきます。
- ・日常生活の問題の解決のために、試行錯誤するなどして情報を収集し、それらを表やグラフに表して、条件に合う事柄について適切に判断することを指導していきます。
- ・社会科や理科、総合的な学習においても、グラフの読み取りを重要視した指導は今後も続けていきます。また、調べたことをまとめる際にも、効果的なグラフの使い方や作成の仕方なども指導していきます。

## 2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

### 【規範意識・自己有用感等について】

- ・「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」と答えた児童の割合は全国値を上回っている。
- ・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」と感じている児童の割合は全国値を上回っているが、「将来の夢や目標を持っていますか」での児童の割合は、全国値を下回っている。
- ・「学校のきまりを守っている」と9割の児童が感じている。

- 児童が今後も将来に対する見通しをもって学習していけるように、様々な人との交流を増やすとともに、職業などを調べる機会を設定するなど、キャリア教育を充実させます。
- 学習活動を精選し、児童が努力して達成できるような課題を設定することによって、児童の努力やできていることを褒めて励ます機会を充実させます。
- 委員会活動や係り・当番活動において、児童がよくできていることを取り上げ、他の児童に広めるとともに、よりよく改善する方法を考えさせたりすることを通して、自己有用感を感じさせる機会を充実させます。
- 学年行事や、教科担任制の交換授業などで、担任だけでなく、教師みんなで児童を見るという姿を示し、自分たちが多くの人から見られ、認められていると感じられるようにします。
- きまりをふりかえる機会をもつことで、守れているきまりを認めるとともに、守れていないきまりの意義を確認して守れるようにしていきます。各クラスで生活目標の取り組み方を考え、実行し、振り返る時間を取っていきます。それを活用し、児童が自主的にきまりを守る意識を育てるような環境にしていきます。

### 【基本的生活習慣等について】

- ・「家の人（兄弟姉妹は含まない）と学校での出来事について話をすると」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」児童の割合は、全国値をやや下回っている。
- ・「朝食を毎日食べている」児童の割合は、全国値を上回っている。

- 早寝早起き・朝ごはんなど、健康的な生活の大切さを、保健だよりや給食だより等も活用しながら、日ごろから伝えていきます。また、ご家庭におきましても学校の配布物などを活用していただきながら、お子さんへのお声かけをお願いしたいと思います。

### 【学習習慣等について】

- ・「平日に、学校以外で、1日当たり2時間以上、勉強をしている（学習塾や家庭教師の時間も含む）」児童の割合は、全国値を上回っている。

### 【地域や社会に関わる活動の状況等について】

- ・「今住んでいる地域の行事に参加している」児童の割合は、6割弱と全国値を下回っている。
- ・「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」児童の割合は、約7割と全国値を大きく上回っている。
- ・「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたい」児童の割合は、7割強と全国値を大きく上回っている。

- 地域行事などのお知らせの文書を配布する際に、行事の内容も知らせることで、児童に関心を持たせるようにします。
- 校内で英語 Day などを活用し、英語に触れる機会を多くとれるようにします。

### 【教科の学習について】

- ・「国語の勉強は大切だと思う」児童の割合は、全国値とほぼ同値となっており、「国語の授業で目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている」と感じている児童の割合は、全国値を上回っている。
- ・「算数の勉強は大切だと思う」児童の割合は、全国値をやや下回っているが、「算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思う」児童の割合は、全国値を上回っている。

- 今後も、国語や算数の学習が社会で役立つということ実感が伴うように、授業においても日常生活と関わる身近な事象を取り上げたり、日常生活と関わる問題や課題を設定したりしていきます。また、学んだことを活かして校内や地域に発信するなど、体験的な活動につなげる学習を行います。

### 【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

- ・「発表では、考えがうまく伝わるよう、資料や話の組み立てを工夫している」児童の割合は、全国値を上回っている。
- ・「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている」児童の割合は、全国値を上回っている。

- 友達の発表を聞く際に、自分の考えを広げるという目的意識を持って聞くことや、話し合ったことで自分の考えが変容したことを振り返ったりする授業を進めていきます。